

受戒

院被定了、予奉仰、内々參大宮、謁女房門、號被定之事申入了、今日申刻女院御薙髮也、  
〔東大寺要錄一書〕菩薩戒始行

惠運僧都記錄文

貞觀三年四月廿五日、皇太后○仁明后并北御息所○文德女御剃頭出家、貧道爲出家和上、長襟師

爲教授阿闍梨也、五月廿五日、啓奉令受比丘尼大戒、太政大臣○藤原良房爲崇重延曆寺、勸進皇太后令

受大乘戒○中殿下允許、請廿僧尼傳戒師於五條宮、以受比丘尼大戒○中皇太后法諱本覺、北御息

所初法諱法忍、受戒之日、改爲空性云々、

〔三代實錄二清和〕貞觀十三年九月廿八日辛丑、太皇太后○仁明后崩○中天安二年八月乙卯、文德天皇

崩后哀慟柴毀、後遂落彩爲尼、請東大寺戒壇諸僧於五條宮、受大乘戒、屈延曆寺座主圓仁、受菩薩戒

〔三代實錄三十五陽成〕元慶三年三月廿三日癸丑、淳和太皇太后○淳和正子崩○中當貞觀二年五月、於淳和

院設大齋會、延諸寺名僧講法華經、裝具囑施、傾盡財寶、便留延曆寺座主圓仁、大阿闍梨、受菩薩戒、奉

太后法名稱良祚、

〔紫式部日記〕例よりもなやましき御けしきおはしませば、○一條后藤原彰子御加持どもまゐる、○中御い

たゝきの御ぐしおろし奉り、御いむ事うけさせ奉り給ふ、○中平らかにせさせ給て、○後一條降誕後の

事まだしきほど、さばかり廣きもや、南の庇、高欄のほどまで立こみたる僧も俗も、今一よりとよ

みてぬかをつく、

〔三代實錄八清和〕貞觀六年正月十四日辛丑、延曆寺座主傳燈大法師位圓仁卒、○中貞觀三年六月、太

皇太后藤原氏○仁明后順子請僧綱名僧於五條宮、四箇日間講法華經、太后受菩薩大戒、三昧耶戒、及檀灌

頂、行大乘布薩、

灌頂